



実施者

- 《教 員》 千葉工業大学 未来変革科学部 経営デザイン科学科 教授 加藤 和彦
千葉工業大学 情報変革科学部 高度応用情報科学科 助教 中川 泰宏
- 《学 生》 千葉工業大学 情報科学部 情報ネットワーク学科 中川研究室
千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科 加藤研究室
- 《協働パートナー》【行政関係】南房総市役所 市民生活部 市民課 市民協働グループ
【企業等】みねおかいきいき館（南房総市大井）、合同会社いいもんだ（香取郡神崎町）
【市民団体等】南房総市大井区、東金市篠笛ワークショップ実行委員会（東金市）

1. 背景・目的

本プロジェクトは、南房総市で広範囲に群生する篠竹の有効利用と、その事業化を目的とする。具体的には、伝統工芸品である篠笛に向けた篠竹が同市に広く自生していることから、この篠笛をブランド化して販売すると共に、素材としての篠竹も合わせて販売することを目指している。このプロジェクトの活動は、2018 年度の「空き公共施設利活用プロジェクト」から始まり、2020 年度の「人材育成支援プロジェクト」を経て、2021 年度に新たなプロジェクトとして独立し、現在に至る。活動場所には、篠笛に適した篠竹が豊富にあり、他のプロジェクトと協働活動を行い、すでに協力関係を築いていた大井地区を選定している。このプロジェクトの発足の前段階として、2018 年度に試験的な篠竹の採取を始め、篠笛文化の周知を行う活動として篠笛ワークショップを開催した。その後も継続的に篠竹の採取を行いながらノウハウを蓄積し、同時に市民向けのワークショップも開催することで、南房総市における篠笛のブランディング化活動を続けている。本稿では 2024 年度に活動した取り組みについて報告する。

2. 活動内容

本プロジェクトは、南房総市の篠竹を篠笛としてブランド化するとともに、篠竹を素材化して販売することを目指している。篠笛は直径 2cm 程度の太さを持つ篠竹を素材とし、表-1 のような工程を経て篠笛となる。これらの工程は大きくまとめると、工程 1～5 番の篠竹採取、工程 6～7 番の篠竹保管、工程 8～11 番の篠笛作成の三つに分けられる。ここで、一つ目の篠竹採取は、採取・切断・選定・煮沸・洗浄の 5 つの小工程に分けられ、二つ目の篠竹保管は天日干し・陰干しの二つの小工程に分けられる。そして三つ目の篠

笛作成は、製管・調律・色塗・籐巻の 4 つの小工程に分けられる。持続可能な事業として篠竹を販売・利用するためには、いくつかの販路を確立し、有効な用途を見出すことが必要である。そこで、本プロジェクトでは、以下の 4 つの手段で篠笛・篠竹の販売・利用することを計画している。

- ① [愛好家向け] 篠笛用素材としての篠竹の販売
② [工房向け] 篠笛用素材としての篠竹の販売
③ [一般向け] 篠笛ワークショップでの利用
④ [一般向け] オリジナルブランドとしての篠笛の販売

このうち、③については、篠竹を採取している地元大井の体験館「みねおかいきいき館」にて 2020 年 12 月から実現しており、2024 年度は③の篠笛ワークショップの体験者を対象にした①の販売も行っている。現在、継続的にワークショップを開催しながらノウハウの現地への移管も併せて進めている。

3. 成果と課題

本プロジェクトは現在、表-1 の工程 1～7 の篠笛用篠竹の準備と、工程 8～11 の篠笛ワークショップの二つを主な 2 本柱として活動を行っている。ここで、2024 年度の活動内容を表-2 へ示す。本年度は 2024 年 2 月 17 日に南房総市大井地区で採取した篠竹の工程 2～5 を同年 8 月 25 日に予定していた。しかし、2024 年に採取した篠竹は、図-1 に示すような虫食いが原因となってすべての篠竹の利用ができなくなっていた。その原因として 2 月の高い気温による水の吸い上げと糖の生成、煮沸工程の実施時期の遅れが要因に

表-1 篠竹の採取から篠笛作成までの工程

no.	工程名	工程内容
1	篠竹の採取	竹林から篠竹を採取する
2	節の切断	採取した篠竹を節単位で切断する
3	篠竹の選定	切断した篠竹から篠笛に利用できるものを選定する
4	煮沸（油抜き）	選定した篠竹の油抜きと煮沸殺菌する
5	洗浄	煮沸した篠竹の汚れを落とす
6	天日干し	篠竹の色抜きと篠竹の耐候性を確認する
7	陰干し	陰干しによる長期の保存によって耐候性を確認する
8	製管（初級講座）	篠竹に穴を空けて音がなるようにする
9	調律（中級講座）	製管した篠笛の音を調律する
10	色塗（上級講座）	調律した篠笛に仕上げとして色を塗る
11	籐巻（上級講座）	篠笛の割れ防止とデザインのために籐を巻く

表-2 2024 年度活動内容

no.	日程	活動内容	会 場
1	2024/ 8/25（土）	篠竹の切断・選定・煮沸・洗浄を予定（虫食い被害によりワークショップ準備のみ）	みねおかいきいき館（南房総市大井）
2	2024/11/10（日）	古典調篠笛ワークショップ（工程 8、21 名参加、篠竹の販売）	道の駅みのりの郷 東金（東金市）
3	2025/ 1/25（土）	篠竹の採取・切断・選定・煮沸・洗浄（工程 1～5、405 本）	みねおかいきいき館（南房総市大井）



図-1 虫食いを起こした篠竹（2024 年 2 月採取分）

図-2 工程 1～5 までを一度に済ませた篠竹（2025 年 1 月採取分）



図-3 市外ワークショップでの大井産篠竹の利用

域学協働の工夫！

- ★事業を後押しする行政との協力関係
★地域住民の理解と協力
★専門性の高い人材を現地とつなげる工夫
★ステークホルダーの相互利益につなげる取り組み

なったと考えられる。そのため、2025 年の採取は 1 月に行い、これまで数日に分けていた工程 1～5 の作業を 1 日で完了させた（図-2）。採取した篠竹の本数は 402 本と従来の採取数に比べて少なかったが、今回処理を行った篠竹を継続的に観察することで、虫食い対策につなげられるものと考えられる。

今年の篠笛ワークショップは、関係者の都合から 1 回の実施のみとなったが、昨年に続き、市外の篠笛ワークショップを通して篠竹の用途拡大を進めた。開催場所は道の駅みのりの郷 東金(東金市)であり、図-3 に示すように子供から大人までの参加があり、午前・午後で計 21 名の参加があった。さらに、本年度は収益化を進めるため、ワークショップで利用する篠竹の販売を行った。また、希望する体験者が自宅でも篠笛を作成できるよう、事前処理した篠竹を販売し、体験者数名に対して十数本販売することができた。今回のワークショップで作成した篠笛は古典調であったため、篠笛経験者が県内各地から集まった。関係者の周囲でも、篠笛の作成を個人

*表彰・マスコミ掲載など
・特になし

やお囃子団体内で行うことが多々見られるため、篠竹の販売も一定数の需要があるものと考えられる。

4. 総括

関係者の努力により事業化が少しずつ進み、現地ワークショップとしても定着しつつある。また、2024 年度より、収益化の一歩として篠竹の販売も実現している。オリジナルブランドの販売には、まだいくつかのステップが必要だが、取り組みの拡大とともにステークホルダーも増えていることから、今後も発展的な展開が見込めるものと考えられる。一方で、事業の運営は、篠竹の採取からワークショップの開催に至るまで、千葉工業大学と東金篠笛ワークショップ実行委員会、各種篠笛工房の支援によるところが少なくない。今後は、現地関係者への支援を続けるだけでなく、南房総市内のお囃子関係者との交流も深めることで、事業の現地化を進めていく予定である。